

文化的景観と近代化遺産についてのシンポジウムが開催されました！

清流通信読者の皆様こんにちは！今回は10月20～21日に四万十町で開催された四万十川流域文化的景観・近代化遺産のシンポジウムのレポートです。



↑ 四万十町 里川の沈下橋

会場となった四万十町大正「きらら大正」には県内外から約80名が参加。まず主催の(社)日本建築学会四国支部の溝渕博彦副支部長の開会の挨拶があり続いて四万十町高瀬副町長、大正美人の会代表山本紀子さんが挨拶。第1部では「四万十川流域の文化的景観を学ぶ」と題し文化庁記念物課の井上典子調査官が世界遺産の事例を紹介しながら「四万十川流域にはまだまだ沢山の文化的景観が隠されており新しい形の発展モデルとなる可能性があるが、そのためには地元の人々の熱意が必要」と講演。第2部は「文化的景観を地域づくりに活かす」をテーマにシンポジウムが開催され、四万十町町民環境課の市川課長から四万十川を中心とした活性化を進めている事例、大正美人の会の林さんからは、文化財調査などにより町内外の交流を深め楽しみながら元気になる活動、そして四万十高校2年生の威能さんは最後の清流から最初の清流へをテーマに四万十川の問題を考える若武者育成プロジェクトというイベントを行っていることなどをそれぞれ発表。高知工科大学の大谷教授からは景観法についての説明に加え「かつて持っていた生活の質を未来に活かすことができれば」との意見があり、最後に井上調査官から「高校生の発表の中で反省会という言葉が久しぶりに聞いた。文化的景観保護は始まったばかりなので皆で反省しながら取り組んでいきましょう」と一言。閉会後は同地区のオートキャンプ場ウェル花夢で参加者と地元の方との交流会もありました。

翌日はこの秋一番の冷え込みとこの秋一番の爽やかな秋晴れのもと町内の流域周辺にある近代化遺産の見学会が開催され、参加者は旧竹内家住宅や沈下橋など5カ所を見学し、四万十川の文化に直接触れていました。



↑ 井上調査官による講演会



↑ 時間一杯まで行われたシンポジウム



↑ 国指定重要文化財の旧竹内家住宅



トピックス 四万十源流の里で船戸小学校の子供達が奉納相撲

10月18日四万十川源流点がある津野町船戸地区にある秋葉神社で小学生による奉納相撲が行われました。参加したのは地元船戸小学校の全校生徒24人。

午後1時過ぎに神社の境内に集まった子供達は神主さんからお祓いを受け低学年の子供達から順番に相撲を開始。いつもは静かな神社の森に子供達とそれを応援する地区の方々の歓声が響きました。

また、この船戸地区では来月10～11日に1泊2日でプレであい博・四万十源流「食べて歩いて見て楽しむ」田舎体験、そして11日には4回目となった「ふなと四万十川源流ウォーキング」が開催されます。今年は津野山神楽の全演目(約7時間・11日午前9:00～)も披露されるとの事ですので興味がある方はぜひお出かけ下さい。

田舎体験とウォーキングについての詳しいお問い合わせ・申し込みは実行委員長の谷脇幸秀さん(0889-62-2434・谷脇工業内)まで。



↑ 一生懸命なかわいらしい取り組みが続々と！